

<チャリティイベント>

Embracing The World 2016 第26回アンマ来日プログラム

—訪れる人すべてを心まで抱きしめる—

世界中で3,600万人を抱きしめ

4万人の人を24時間以上かけて抱きしめることも

訪れる人、一人ひとりを抱きしめるという行為で、世界中の人から慕われるシュリー・マター・アムリターナンダマイー・デーヴィ、【通称アンマ(お母さんの意)】が来日。東京でプログラムを開催し、講演等の他、来場者一人ひとりを無償の愛で抱きしめます。アンマは、インド国内外での津波や地震の救済活動をはじめとした国際的な災害支援や、貧しい人々の自立支援、高度な教育活動など、広範な慈善活動を展開するエンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)の代表でもあります。

4万人以上の人を24時間以上かけて抱きしめることもあります。2007年アメリカCBS-TV制作番組『IN GOD'S NAME』では、世界で最も影響力のあるスピリチュアルリーダーのひとりとして、ローマ法王やダライラマ法王と共に紹介されました。2014年12月、ローマ教皇より招聘され、バチカンにて行われた、あらゆる奴隷状態の根絶を目指す信仰指導者たちの共同宣言の式典にて、世界の信仰指導者たちと共に署名しました。2015年国連にて、アムリタ大学の学長として、世界を代表とする93大学の代表者を前に講演を行いました。海外では、大統領や首相、ノーベル賞受賞科学者なども抱擁を受けるなどし、これまでに数多くの賞を授与され、国連に招かれて講演を行うなど国際社会にも影響を与えています。

<開催日・場所> 2016年 7月 18日(月・祝)、19日(火)、20日(水)

(詳細 P.6 参照) 会場: ベルサール渋谷ガーデン [ホールC]

東京都渋谷区南平町16-17 住友不動産渋谷ガーデンタワー地下1階



Sri.Mata Amritanandamayi Devi

<アンマとETW(エンブレイシング・ザ・ワールド)>

過去45年にわたって世界中を歴訪し、3,600万人を母のような愛で抱きしめてきたアンマの精神から人道的慈善活動エンブレイシング・ザ・ワールド(ETW)が生まれました。現在約42カ国で展開されている。その理念は、世界の貧しい人々や被災者の苦しみが軽減されるよう、食料、住居、教育、保健医療、収入機会創出という、5つの基本的ニーズの充足を支援することである。ETWの中核組織であるインドMAマートは、2008年に国連提携NGOに認定され、2011年、東日本復興支援のために「みやぎこども育英基金」へ100万米ドル(8,060万円)の寄付を行い、同年アンマは来日時に、宮城の被災地も訪れ、多くの人々を抱擁した。2013年フィリピン大型台風災害支援のために「ヨランダ・ハイヤン・マルチ・ドナー基金」へ100万米ドル(当時約1億円)の寄付を行い、家を失った人たちのための職業訓練や学生が高等教育を終えられるまでの教育費等の支援活動を継続。2015年4月25日に発生したネパール大地震への緊急支援として、現地カトマンズへ、5万kgの小麦、2千セットの衣服、医薬品、毛布等を送り、支援活動を継続した。2016年4月、ETWは、九州・熊本被災地にて、支援活動を行った。今後も継続を予定。

26回目を迎える本年のプログラムでも、
アンマは来場者を最後のひとりまで抱きしめ続ける—
無償の愛を伝えるために

＜国際舞台でのスピーチ・会議・受賞歴＞

ニューヨーク	2015年: アムリタ大学と国連アカデミック・インパクト共催の会議
バチカン	2014年: あらゆる奴隷状態の根絶を目指す共同宣言の式典にて、ローマ教皇等と共に署名、スピーチ。
ニューデリー	2013年: スワミ・ヴィヴェーカーナンダ生誕100周年記念祝賀祭
上海	2012年: 国連「文明の同盟」(UNAOC)アジア・南太平洋協議会
ニューヨーク	2010年: ニューヨーク州立大学バッファロー校より、人文学名誉博士号
ニューデリー	2009年: ヴィヴェーカーナンダ国際財団の開所式主賓
ジャイプール	2008年: 「女性による地球平和行動」サミットにて基調講演
パリ	2007年: カンヌ国際映画祭招待ドキュメンタリー映画『ダルシヤン』出演 人道的活動と平和運動により、シネマ・ヴェリテ賞を受賞
ニューヨーク	2006年: ジェームス・パークス・モートン・インターフェイス賞を受賞
プネー	2006年: 哲学者および聖者シュリー・ニャーネーシュワラ世界平和賞受賞
ロンドン	2005年: マハーヴィル・マハートマ賞を受賞
バルセロナ	2004年: 「世界宗教会議」にて基調講演
ジュネーブ	2002年: “非暴力への世界運動”より、ガンジー・キング平和賞を受賞(国連総会議場にて)
アメリカ	2002年: ヨガ・ジャーナルより、カルマ・ヨギ・オブ・ザ・イヤーを受賞
ニューヨーク	2000年: 「ミレニアム世界平和サミット」にて基調講演(国連総会議場)
シカゴ	1998年: ケア&シェア・インターナショナルより、イヤー・オブ・ヒューマニタリアンを受賞
ニューヨーク	1995年: 国連創立50周年記念「異宗教間会議」にて祝賀スピーチ
シカゴ	1993年: 「世界宗教会議」100周年式典にて講演。ヒンドゥー教総裁の名を受ける
アメリカ	1993年: ヒンドウイズム・トウデイより、ヒンドゥー・ルネッサンス賞を受賞



国連創立50周年
記念祝賀スピーチ
N.Y.国連本部にて



2010年ニューヨーク州立大学
人文学名誉博士号授与式



2014年 バチカンにて、
あらゆる奴隷状態の根絶を目指す共同宣言
の式典にて、ローマ教皇(左)等と共に署名



2007年シネマ・ヴェリテ賞受賞式
女優シャロン・ストーン氏より贈呈

＜海外メディアの報道＞ (P.7参照)

「休むことなく抱擁を続けることで、アンマは世界の苦悩と戦っている」 — ニューヨーク・タイムズ紙 —

「アンマは、抱擁を受ける人が、その場にいるたった一人の人間であるかのように、心から抱きしめる。彼女の温かい抱擁を受け、喜びをたたえた眼差しを向けられたとき、私は他の人たちが感じたのと同じものを感じることができた。そして、この不信と不安の時代に、“無条件の愛”というメッセージを送り続けるひとりの女性が存在することについて、思いを巡らせた」 — FOXニュース キャスター —

「彼女に教理があるとするなら、それはシンプルなものだ。互いに愛し、奉仕なさいという教えである」 — ボストン・グローブ紙 —

「インドで最も著名な精神的指導者(スピリチュアル・リーダー)の一人である女性
マダー・アムリターナンダマイーは、スマトラ沖地震による津波で崩壊した住宅再建のために
2300万ドルの拠出を誓約した」 — BBCニュース —

「アンマは、マザー・テレサやマハトマ・ガンジーのような、世界的に知られる精神的指導者に急速になりつつある」 — ロイター通信 —

<アンマが世界中で抱擁するに至るまで>

1953年、南インド・ケーララ州の貧しい漁村に生まれました。

9歳の頃、母親が病に倒れ、一切の家事と7人の兄弟の世話をするため、学校を辞め、

幼いアンマが、片道徒歩数時間かかる距離を毎日往復して、牛の餌集めなどもして過ごしていました。

ヒンドゥー教の環境で育ったアンマは、厳しい労働のさなかにも、常に神を愛し、

神に捧げる歌を作って口ずさんでいました。人々もまたその歌を愛し、幼い彼女の歌声に聴き入り、癒されました。

アンマはあるとき、世の中に、深刻な貧困や飢えに苦しむ人たちが大勢いるのを目のあたりにし、

まだ子供だったにも関わらず、自分自身の食べ物もすべて人に与え、貧しい家庭の老人をお風呂に入れるなど、人々の世話をするようになりました。

ひどい貧困に苦しむ人がこの世に存在することを受け入れられなかったアンマは、

あるとき、目の前にいる苦しむ人を抱きしめずにはいられませんでした。

すると、次の人も同じようにアンマの抱擁を求めるようになり、

アンマは自然に多くの人たちを抱きしめるようになりました。

人々は、アンマの慈悲深いいたわりと無償の愛に心を打たれて、彼女を「アンマ(お母さん)」と呼ぶようになり、

やがてその抱擁が世界中で求められるようになったのです。

アンマの抱擁(ダルシヤン)を求める人は今も増え続け、

来る日も来る日も、アンマはあらゆる人々を無条件の愛で抱きしめ続けています。

現在までに、3,600万人以上の人々が、彼女の胸で深い安らぎと愛を経験するに至ります。

— 手を差し伸べる力がある限り、泣いている人の肩に手を置く力がある限り、

アンマはダルシヤン(抱擁)を続けます。優しく撫で、慰め、涙をぬぐってあげるために。

この身体が朽ち果てるまで。それがアンマの望みです — アンマ



NEWS!!

アカデミー賞受賞監督、クロード・ルルーシュ氏の最新作「アンナとアントワーン〜愛の前奏曲〜」に

アンマが登場します。主人公の女性がインドを北から南まで巡礼の旅へ、南インドでは、聖なる母アンマに会いに行く、という設定です。9月3日(土)から全国ロードショー <http://anna-movie.jp/>

「アンマの抱擁には、アカデミー賞やパルムドール賞を受賞した時よりも感動を覚えた」—クロード・ルルーシュ氏—

<著名人によるコメント>

「アンマは21世紀に求められている問題に取り組んでいます。政府がすべきことを、アンマがなさっているのです」
—ナレンドラ・モディ氏(インド大統領)—

「この地域で、ケーララ州で、インドで、世界中で、アンマがあらゆる人に与える行為を続けておられることこそが、何よりも大いなるメッセージです」
— A.P.J アブドゥル・カラム博士 (元インド大統領) —

「人生を奉仕に捧げたアンマは、私たち皆にとって優れた手本である」 — スティーブン・C・ロックフェラー博士 —

「私が今まで撮ってきた50本もの映画は、アンマとインドを中心に展開する次の映画の準備だったと感じている。アンマの抱擁には、アカデミー賞やパルムドール賞を受賞した時よりも感動を覚えた。アンマに会えた2014年1月19日という日は、私の76年の人生で最も重要な日となる」
—クロード・ルルーシュ氏(アカデミー賞受賞映画監督)—

「アンマは純粋な愛の体現者であり、彼女の存在に癒されます」 — ディーパック・チョプラ医学博士 —

「初めてアンマの抱擁を受けたとき、それまで経験したことのない深い満足感を覚えました。求めていたものがすべて与えられ、莫大な愛が、私の中に注ぎ込まれるのを感じました。アンマは、人間はどうあるべきか、どう振る舞うべきかという理想をすべて体現しておられます。アンマは同情心であり、愛であり、許しです。彼女はご自身の存在の輝きで、無数の人々を啓発しておられます。それゆえ、アンマに会いに来られることは素晴らしい祝福なのです」
— 故ヨランダ・キング女史(キング牧師の娘) —

「アンマのもとで作られたものや集められたお金が、これほどロスなく、必要な人々に直接届けられ、役立てられているのを見て、強い衝撃を受けました。諸々の国際的NGOや国連機関には、アンマの仕事やアンマが実現できた物事を見て、学ぶべきことがあると思います」 — オラーラ・A・オトゥンヌ前国連事務次長 —



上: 元インド大統領
A.P.Jアブドゥル・カラム博士と



上: ローマ教皇と
あらゆる奴隷状態の根絶を目指す祈念式典にて



上: インド大統領
ナレンドラ・モディ首相との会談



上: 俳優 リチャード・ギア氏と



上: 2011年、ケニアに孤児院開設時
カロンゾ・ムソカ ケニア副大統領と



上: 俳優 ジム・キャリー氏と

<著名人のファンも多い>

クロード・ルルーシュ氏(アカデミー賞受賞監督)、ジム・キャリー、エンヤ、ジュリエット・ビノシュ、ジゼル・ブンチェン、ニック・ノルティ、ステイング、リチャード・ギア、リサ・ボネット、スーザン・サランドン、ジョン・キューザック、ラッセル・シモンズ(DefJam創造者)、アリス・ウォーカー、ラッセル・ブランド、スティーブン・セガール、ゴールドディー・ホーン、ミシェル・ロドリゲス、ヒルトンファミリー、ロザリオ・ドーソン、カート・ラッセル、ジム・キャリー、マイク・D (Beastie Boys)、ムハマド・ユヌス(2006年ノーベル賞受賞者)、マイケル・ブルームバーグN. Y. 市長、ポーラ・アブドゥル、ダグ・E. フレッシュ(ラッパー)、J・マスキス(ダイナソーjr./Vo.Gu.)、等。

ETW (エンブレッシング・ザ・ワールド) の活動の一部

慈善活動の動画はこちらからご覧になれます
<http://www.youtube.com/AmmaJapan>



左/下: 2004年インド洋で起きた大津波の後、ETW救援キャンプで被災者を慰めるアンマ



上: ネパールで発生した破壊的な地震により、その状態の地面にまだ立っている建物の中で眠ることを恐れる生存者たちのために、50トン(5万kg)の小麦と、2千セットの衣服や医薬品等を送り、現地へ医療チームを派遣中。



上: 津波被災者への支援の一環としてタミルナドゥ州とケーララ州で、4ヶ月間にわたり計750万食以上の炊き出しを行った



下: 2001年、グジャラートの大震災後、医療、食料、避難所等を数千人の被災者に提供。医療支援を6ヶ月続け、ETWの医師たちが100件以上の外科手術を行った。



上: 2005年9月、ハリケーン・カトリーナ基金に100万ドル(当時:約1億1千万円)を寄付。中央はビル・クリントン元アメリカ大統領



上: 2016年5月九州・熊本地震の被災地にて支援活動



上: 2011年7月 宮城県多賀城市の避難所を訪問

下: 2011年の大震災後は、震災3日後に被災地へボランティアグループを送り、水や食料を提供した。その後も宮城県石巻市や岩手県陸前高田市において、食料や必需品の提供、掃除、洗濯、泥かき、民家の瓦礫撤去などの支援を行った。



下: フィリピンを襲った大型台風ハイエンによって、親を失った子どもたちや被災した子どもたちのために、大統領府を通してマルチドナー基金へ100万ドルを寄付。2014年4月

(左: パンフィロ・M・ラクソン復興相/元上院議員)



下: 2011年9月、宮城県庁にてみやぎ子ども育英基金への寄付100万ドルを村井宮城県知事へ贈呈 (中央: 村井嘉浩知事、右: ETW事務局長)



東日本大震災救援活動の詳細はこちら <http://www.embracingtheworld.org/jp/what-we-do/disaster-relief/japan-relief/>

<“Embracing The World 2016 第26回アンマ来日プログラム”開催概要>

【名称】Embracing The World 2016 第26回 アンマ来日プログラム (チャリティイベント)

【主催】特定非営利法人 国際チャリティ協会 アムリタハート

【内容】アンマによる抱擁／アンマのスピーチ／インド伝統音楽／チャリティカフェ・ダイニング／インド占星術／チャリティバザー(CD、書籍など)／慈善活動紹介ビデオ上映&パネル展示／他

※収益はすべて、慈善活動に充てられます。

【趣旨】身をもって“無償の愛”を伝え続けるアンマの抱擁により、深い安らぎと愛を経験していただき、一人一人の胸に愛の目覚めた、愛ある社会の実現に寄与したい。
激しい変動のさなかにある今、母なる地球、自然の尊さを深く認識して、自然の中での人間の位置づけ、人間が本来自然と持つべき関係を思い出していただき、自然と調和した生き方を手にしていただくことによって、人間本来の心の安らぎを取り戻していただく契機にしたい。

【会場】ベルサール渋谷ガーデン[ホールC]

東京都渋谷区南平町16-17 住友不動産渋谷ガーデンタワー地下一階

【日時】2016年 7月18日(月・祝)、19日(火)、20日(水)

18日(月・祝) * 初日のみ一日一回の開催
開演11:00(開場10:00)

27日(水)、28日(木)
〈午前の部〉開演10:00(開場09:00)
〈午後の部〉開演18:30(開場17:30)

最終日、20日(水)の午後の部では、特別プログラム『世界平和の祈り』(18:30~20:00)が冒頭に行われます。
※最終日(20日)の午後の部は、開催上の都合により、取材はお断りしております。

【入退場】入場・抱擁等無料／入退場自由

【整理券について】メディアの方は必要ございませんが、一般の方は、抱擁を受けるための整理券が必要です。
開場とほぼ同時に配布を開始する予定で、尚、抱擁は、おひとり一日一回となっています。

【後援】インド大使館

【協力】Embracing The World (世界を抱きしめる)、日本MAセンター、株式会社アクセル、東和運輸株式会社、企画・宣伝共同組合エコフィールド事業本部、NPO国際ボランティア学生協会

【お問い合わせ先】広報担当理事:長野

(携帯) 050-3693-7290 / 070-5579-9270 kouhou@amritaheart.org

特定非営利活動法人 国際チャリティ協会 アムリタハート

(<http://www.amma-rainichi.org/> <http://www.amritaheart.org/>)

エンブレッシング・ザ・ワールド (ETW <http://www.embracingtheworld.org/> <http://www.embracingtheworld.org/jp/>) と名づけられたアンマの活動は、アンマの腕の中で涙した世界中の貧しい人々のニーズに応えようと開始されたもので、現在42カ国で展開されています。ETWの願いは、助けを求める人々の5つのニーズ(食料、住居、教育、保険医療、収入機会創出)に応え、いつの日かすべての人々が、尊厳、安全、安心を得て平和に暮らせるようになることです。ETWのインドでの活動は、国連経済社会理事会の特別諮問資格を有するNGOである「MAマート」によって運営され、日本での活動は特定非営利活動法人「国際チャリティ協会アムリタハート」によって実施されています。

(アドレスやタイトルをクリックすると動画や記事をご覧ください)

動画

- CTV <Amma, Pope Francis & world faith leaders in Vatican a historic initiative >
12/2014 (15:27)
ローマ教皇より、招聘されバチカンで行われた式典において、あらゆる奴隷状態の根絶を目指す信仰指導者たちの共同宣言に、ローマ教皇をはじめとする、世界の信仰指導者たちと共に署名。
<http://www.youtube.com/watch?v=LkaYTiE2PsY>
- Fox News 7/2007 (3:49) http://www.youtube.com/watch?v=dteK_V_pCbc
- ABC News Chicago (3:19) <http://www.youtube.com/watch?v=JsiPoRUfokc>
- CBS < 2-hour special "In God's Name" (2007) > (7:07)
「2007年、In God's Name という2時間の特別番組が、ローマ法王やダライ・ラマ法王を含む世界の代表的な12人の精神的指導者を特集し、アンマはインドに古代から伝わる伝統を代表する存在として取り上げられた」
<http://www.youtube.com/watch?v=tysCHF57uYc>
- ABC Nightline 2010 (7:20) <http://www.youtube.com/watch?v=EmwTat4dd94>
- ABC NEWS U.S. Pilgrims Make Trip to India for ... a Hug

記事

- NY Times Tour of Embraces Makes a Stop in Manhattan
- NY Times Slideshow A Lifetime Embracer in Midtown
- Fox News The "Hugging Saint" Visits the U.S.
- ABC News 20/20 The Power of a Hug
- NPR An Indian Spiritual Teacher Visits the U.S.
- Esquire The Endorsement: The Hug
- USA Today Amma: The "Hugging Saint"
- Christian Science Monitor "Hugging Saint" is Compassion in Action
- The Independent The Woman Who Has Embraced 25 million
- BBC A hug from Amma
- The Guardian Amma: The 'hugging saint'
- BBC Film award honours 'hug guru'
- CNN Guru fights world's 'poverty of love,' one hug at a time
- CBS New York Amma, Known As The Hugging Saint, Embraces New York City
- Irish Times 'It's like being soaked in love'

正式名:	シュリー・マター・アマリターナンダマイー・デーヴィ
世評:	人道活動家、世界的な精神的指導者
生年月日:	1953年 9月27日
誕生地:	インド、ケーララ州、コッラム地区パラヤカダーヴ村
母国語:	マラヤラム語
抱きしめてきた人数(現在):	3,600万人
初ワールドツアー:	1987年
プログラム開催国(現在):	日本、アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、インド、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、ケニア、クウェート、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、チリ、ドイツ、ドバイ、フィンランド、フランス、ブラジル、マレーシア、モーリシャス、レユニオン、ロシア
現在の役職:	エンブレッシング・ザ・ワールド創設者、代表 マター・アマリターナンダマイー・マート創設者、会長 マター・アマリターナンダマイー・チャリタブルトラスト創設者、会長 マター・アマリターナンダマイー・ミッショントラスト創設者、会長 アマリタ・ヴィシュワ・ヴィディヤペータム大学学長 アマリタ医学研究所(AIMS病院)創設者

* アンマについては以下のサイトからもご覧いただけます
<http://www.amma.jp/web/contents/AboutAmma/aboutamma.html>
<http://www.amma.org/> <http://www.amma-europe.org/>



2003年9月のアンマ生誕50周年祝賀祭では、世界191か国から4日間で延べ20万人以上が世界平和と調和の祈りに集まり、連日スタジアムを埋め尽くした。アンマは毎日抱擁を行い、最終日には24時間以上抱擁を続けた。抱擁した人数は4日間で10万人に上った。

ホームレスのために現在までに建設した戸数：	4万5,000戸。インドとスリランカの75カ所にて
ホームレスおよび飢えている人々に配給マザーズ・キッチンを実施	1,000万食。インド全土にて 毎年7万5,000人以上の人々に食事を提供
AIMS病院、98年に開院して以来、無償で治療を提供している数	300万人以上の人に（70億円以上の治療）
奨学金を提供している 恵まれない子供たちの人数（現在）：	4万6,000人、将来の目標は10万人
就職経験のない女性たちに	10万件の就職先 6万9,000件の生涯年金
在宅ビジネスを開始するための自立支援を提供している貧しい女性の人数：	10万人以上（インド全域）
スラムに住む人々を新しいアパートへ転入させた世帯数：	1,600世帯
2001年以来植樹した数：	100万本（国連「一億の木」の参画団体として）
2001年以降完全無償の診療を提供した人数（現在）：	260万人
毎年食料を提供している人数：	1千万人（インド）、インド国外で10万人（米国で7万5千人）
身寄りのない女性、貧困や障害に苦しむ人へ毎月年金を提供している人数：	5万9,000人（インド全域）、目標は10万人
お世話している孤児たちの人数：	554人（インドで500人、ケニアで54人）
インド全土にあるアンマの施設全体で、有機性廃棄物が処理	一日に8トン（8千万キログラム）
インド初のコンピューター支援による適応型アセスメントおよび学習プログラムを提供 貧困地域にて無料の医療キャンプを実施	農村部の2万7,000人を超える生徒 毎年100回以上

* ETW について詳しくは下記の公式サイトをご覧ください：

ETW	http://www.embracingtheworld.org/jp
ETWとは	http://www.embracingtheworld.org/jp/who-we-are/
ETWの活動概要	http://www.embracingtheworld.org/jp/what-we-do/
アンマ：ETWの創設者	http://www.embracingtheworld.org/jp/amma/
ETWの東日本大震災災害支援活動について	http://www.embracingtheworld.org/jp/what-we-do/disaster-relief/japan-relief/
ETWの紹介パンフレット（日本語。94ページ） ダウンロードはこちら	http://www.amma.jp/downloads/etw2012jp.pdf （7.1MB）